東アジア戦略概観

East Asian Strategic Review

2004

防衛庁防衛研究所編

はしがき

本書は、東アジアの安全保障環境について、2003年１月から12月までの１年間の動向を記述の対象としている。東アジアの情勢は、冷戦が終了して10年以上たつ現在においてもなお緊張をはらんでいる。北朝鮮による核兵器不拡散条約（NPT）からの脱退宣言は、朝鮮半島における核危機を再燃させ、日本に大量破壊兵器（WMD）の脅威をもたらした。一方でイラクに対する武力行使と、その後の混乱は、WMD とテロとの闘いをめぐる問題を浮き彫りにした。

東アジアの平和と安定を確保するためには、この地域の安全保障環境を客観的に理解することから始めなければならない。『東アジア戦略概観』はこうした認識の下、防衛研究所の研究者が独自の視点から東アジアの安全保障環境を分析したものである。防衛研究所は、国際安全保障および戦史について調査・研究を進めるとともに、諸外国の国防大学に相当する教育も行っている。また、調査・研究の一環として、わが国の隣国である中国、韓国、ロシアおよび東南アジア諸国連合（ASEAN）各国との間で安全保障対話・防衛交流を推進している。また防衛研究所は、『防衛研究所紀要』やホームページ（http://www.nids.go.jp）を通じて広く調査・研究活動の成果を発信しているが、『東アジア戦略概観』もその一環として出版している。

2003年中に生起した事件や東アジアの安全保障を考える上で重要と思われる中長期的な課題をトピックスとして取り上げるとともに、朝鮮半島、中国、東南アジア、ロシア、米国の内政・外交・軍事情勢と、日本の防衛問題について記述した。本書が読者にとって東アジアの安全保障環境を理解する一助となることを希望するとともに、議論を喚起するものとなることを期待している。

本書は防衛研究所の編集・執筆グループが研究者の立場から論述したものであり、政府および防衛庁の見解を示すものではない。各章の中心的な執筆担当者は、道下徳成（第１章、第３章）、高井晉（第２章）、増田雅之（第４章１節）、川勝千可子（同２節）、鴻上富男（同３節）、恒川潤（第５章）、兵頭慎治（第６章）、佐藤丙午（第７章）、奥平穣治（第８章１節）、小川伸一（同２節）である。また編集は、小川伸一、小野圭司、春日和美、菊地茂雄、小柳順一、庄司智孝、富川英生、山下光、渡邊武が担当した。

平成16年（2004年）２月

防衛庁防衛研究所　第１研究部長
編集長　近藤重克